

VI-Ⅱ 講 演
(聴覚障がい者と防災問題)

ベターコミュニケーション協会会長
中園 秀喜

聴覚障がい者と防災問題

ベターコミュニケーション研究会・バリアフリーアドバイザー 中園秀喜

65歳以上の高齢者の数

まだまだ大丈夫！
だと思っていたら...

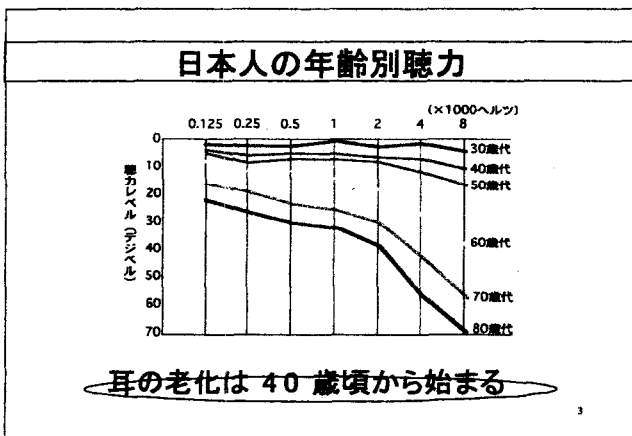
2025年
約3,500万人
(28.1%)

2000年
約2,200万人
(17.4%)

もっと早く手を
打っていたら
よかったなあ...

（出典：人口動態調査）

バリアフリーユニバーサルデザイン化は避けられない



ご検討下さい。

聴覚障がい者の数
(予測)

600万人
2000年

800万人
2050年

1%以上が利用者になるとしたら...

難聴者です(敬称略)

森繁久彌 (俳 童)

故 松下幸之助 (松下電器創立者)

故 井深 大 (ソニー創立者)

難聴者です(敬称略)


故ジェラード・フォード (38代・米国大統領)

故 ロナルド・レーガン (40代・米国大統領)


H・W・ブッシュ (41代・米国大統領)

難聴者です (敬称略)


ビル・クリントン
(42代・米国大統領)



鄧小平
(中国の実力者)



中園秀喜
(タダの人)



聴覚障がい者和其他の障がいの違い

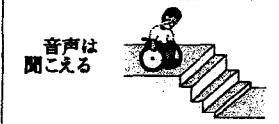
～火災の例～

肢体障がい
視覚障がい

⇒

音声は
聞こえる

⇒



⇒


逃げられる

聴覚障がい

⇒

音声は
聞こえない

⇒



⇒

逃げられない

聴覚障がいと他の障がいの違い

1950年、岡山県立ろう学校で火災
(当時は盲学校とろう学校が一籍)。
視覚障がい者は全員無事。
聴覚障がい者16人全員焼死。

聴障者 2F 16人死亡
視障者 1F 0人死亡

1985年以降、
聴覚障がい者の被災者は156人以上

聴覚障がいと他の障がいの違い

肢体障がい
視覚障がい

⇒

障がいは
みえる

⇒

配慮は
比較的
簡単

聴覚障がい

⇒


障がいは
みえない
バリア!!!!

⇒


配慮は
比較的
困難

聴者と聴覚障がい者の違い

テレビを見る
↓
情報が入る
↓
避難簡単



テレビを見る
↓
内容がわからず
取り残される
↓
各種の損失発生

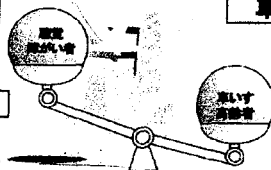


情報の公平

バリアフリー&ユニバーサルデザイン

聴覚障がい

車いす・高齢者



物理的配慮

重視

情報的配慮

重視

聴覚障がい者はカヤの外????

公平に!!!

国連「障がい者の権利条約」

駅、病院、役所、学校、ホテルなどほとんどの施設
および航空機、船舶、バス、タクシーにも適用されます



聴覚障がい者への配慮も明記。

聴覚障がい者には「手話・筆談・
文字で情報を伝えること」(要約)

1313

災害列島・ニッポン



14

阪神淡路大震災との違い



15

災害時の問題点

停電や混雑のため
ファックスや電話が使え
ず、連絡がスムーズに
とれなかった。

情報の公平



避難勧告や避難命令が
聞こえず、避難できなかった。

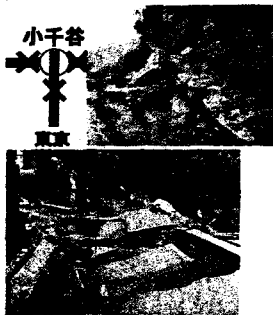


避難所に避難したが、
聴覚障がい者に対する
配慮がなかった。



16

困ったこと



- 1) 手話、筆談通訳者の家屋も破壊支援困難
- 2) 道路も寸断、外部からの支援困難
(コミュニケーション機器等、
救援物資宅配不可)

支援開始まで1週間以上
この間聴覚障がい者は

孤立に



17

備えあれば憂いなし ①

1) 3日間かけて収容先の避難所
内で聴覚障がい者を探してまわ
り、2人の聴覚障がい者に出会う。
一人は補聴器、一人は中途失聴
者。共に手話ができない。

手話ができない聴覚
障がい者も困ってい
るので援助を。




2) 「当面はこのツールを使って下
さい」といった時、「私は手話以外で
できないので」と断った手話通訳者も。

手話以外のツールの
使い方なども学んで。

ボランティア体験から

電光文字表示機の最大の特徴



「リモコン型電光文字表示機」

日本語の他、英語などにも対応

火災報知機にも連動

災害時は避難所でも

★普段は案内に
非常時は避難所で

19

精神的効果




・聴覚障がい者の不安軽減

・医師等の負担軽減

20

備えあれば憂いなし



ろう学校・情報提供施設
災害時の情報支援拠点に

「LED付き電光文字表示機」

普段は案内や研修会の案内などを表示

災害時は一時貸出

大災害時は各地の施設などから貸出を!

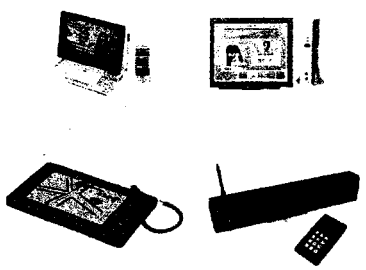
21

ご要望・避難所に各1セット常備を!!!

視覚障がい者

肢体障がい者

聴覚障がい者



22

避難所ポスター掲示の意味



必要な情報を探すのは大変

目立つ工夫を

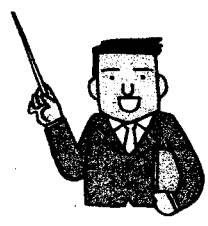
見える形でPRを

- 1.聴覚障がい者や、周りの人々に応急ツールの活用をPR
- 2.行政やボランティアなどに聴覚障がい者がいること、配慮が必要な事をPR



23

勉強会、講演会などの実施


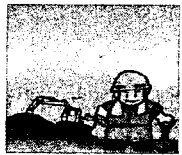

- 福祉課・福祉事務所向け (例/東京都)
- 市議会超党派による防災ツール等の勉強会の開催 (例/東久留米市)
- 防災委員向け (例/横浜市)
- 聴覚障がい者協会会員向け (例/宮城県)



24

なぜ、情報バリアフリー法が必要か		
	聴覚障がい者	肢体障がい者
メール法	関係ない	
情報		関係ない
人的配慮	<input type="checkbox"/> 手話通訳 <input type="checkbox"/> 要約筆記	<input type="checkbox"/> 介護者
法律	情報バリアフリー法の創設を!!	バリアフリー法

それぞれがパイオニアに……

人が通る。道ができる。

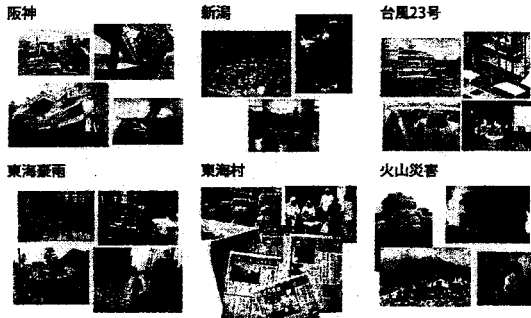
大切なこと

動かないと

何も変わらない

進めよう!! 避難所などの 情報バリアフリーを!!

災害列島・ニッポン



バリアフリー新法

駅、病院、役所、学校、ホテルなどほとんどの公共施設
および航空機、船舶、乗車タクシーにも適用されます



耳の不自由な人のへの配慮も盛り込まれました。

「聴覚障害者には筆談や
文字で情報を伝えること」(要約)

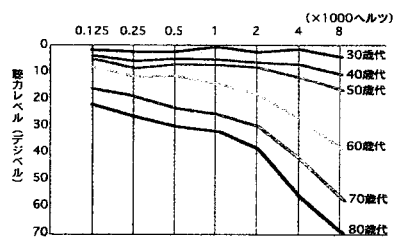
意識変革を

「聞こえる」ことを
当たり前としているかぎり
世の中は変わらない。

発想の転換を…

そして、パイオニアに

日本人の年齢別聴力



耳の老化は40歳頃から始まる

図などは「進めよう!! 避難所などの情報バリアフリーを!!」の講演用パワーポイントより抜粋

地震、火災、台風、原子力事故、火山爆発、集中豪雨など災害大国、日本には「安全地帯」はありません。「備えあれば憂いなし」。各地の自治体は各種の災害に備えて様々な準備をしています。

なかでも後手後手になったり、忘れられているのが聴覚障害者や日本語を理解できない外国人など情報障害者に対する対策ではないでしょうか。

聴覚障害者も人間です。聞こえる人が得られる情報は聴覚障害者や、外国人にも分かる方法で伝えていただきたいのです。

「情報は平等に、公平に」

日本は高齢社会、現在 2250 万人、25 年後には 3500 万人以上に増加します。聴覚障害者は軽い難聴者も含めると現在 600 万人以上、50 年後には 800 万人以上に増加が予想されています。今、元気な人も明日は我が身かも知れません。バリアフリー・ユニバーサルデザインは自分の問題であり、みんなの問題でもあるのです。

聴覚障害者に優しいことはそうでない人にもやさしいのです。

この資料は主に新潟県中越地震の後方支援をしてきた経験からまとめています。

どうぞ、ご活用ください。



避難勧告などが聞こえず、避難できなかった。



停電や混線のためファックスや電話が使えず、連絡がスムーズにとれなかった。

聴覚障害者の 災害時の問題点



避難所で手話通訳などが無いとお知らせがわからない。



避難勧告の発令が深夜だったこともあり、ファックスでは対応しきれない面があった。

警察、消防署などの行政が一人暮らしのお年寄りに配慮を怠り、緊急時にも対応できるようなマニュアルを作成する必要がある。

聴覚障害者に対する教育も必要。



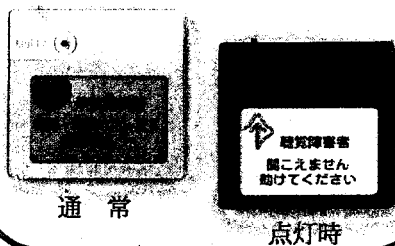
中園秀喜(ペンネーム 岩淵紀雄)。大分県生まれ。ベター・コミュニケーション研究会会長バリアフリー・アドバイザー。国土交通省、経済産業省、厚生労働省、総務省消防庁などバリアフリー・ユニバーサルデザイン関係委員、NHK「聴力障害者の時間」司会歴任。「拝啓 病院の皆様」-聴覚障害者が出会うバリアの解消を-(現代書館)など著書多数。各種表彰受賞。

耳の不自由な方へのご案内（案）

- ★ 普段は仕事や娯楽に。災害時は避難所などで。
- ★ 新潟県中越地震の体験から生み出された道具。

照明ネーム

災害初期、特に夜間や停電時は防災担当者を探すのに一苦労。災害時の特に暗いところでは、防災担当者などの目印に。LED表示器は名札兼用POP。日本語、英語も可。

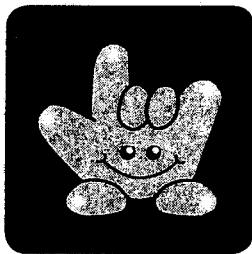


通常

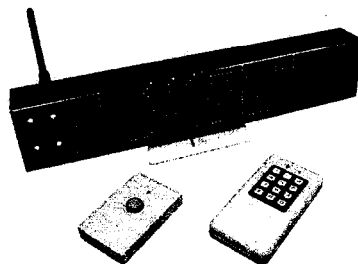
点灯時

光るキーホルダー

避難所での最初の仕事は聴覚障害者と手話のできる人などを探すことでした。このバッジは指文字の「アイラヴユー」をかたどったもの。これを着用している人は聴覚障害者関係者と分かるように約束しては？ キーホルダーは着脱可。普段はカバンや携帯電話に。



電光文字表示器

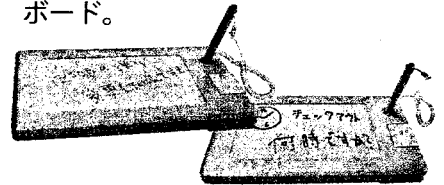


(特注品)

街の中で活躍している電光文字表示器は災害時には役不足でした。情報を送るためにはパソコンがあるところまでいく必要があります。これが大変。グラリと来たら操作者も逃げるのが精一杯。しかも、避難所はパソコンをいじったことのない高齢者がほとんど。これらの体験から「誰でも」「簡単に」「送れるよう」と考えた「電光文字表示器」がこれ。100m以内なら「どこでも」送信OK。16文例登録可。1文例は70文字まで。日本語も英語も流せます。Eメール対応型も。普段は館内放送や議会の案内などに。この商品はリースも可。

簡易筆談器

通話者の家も倒壊。特に災害初期は手話通訳の確保も困難でした。こんな時に役立ったのが簡易筆談器。繰り返してかける、紙の無駄遣いもなく、環境に優しい筆談ボード。



普段は窓口のコミュニケーションや案内代わりに。沢山いるところでは大きなサイズのチョークレスボード。少ないところでは「かきポンくん」がベター。「パールメモ」はクリップ付きでバッグなどに取り付けられるので携帯に便利!!



ソーラーライト

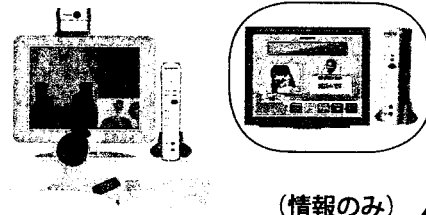
被災地からの第一報は「懐中電灯の電池が切れた。星空の下ではコミュニケーションも困難」。そこで考えたのがこれ。3~4時間の充電で約8時間点灯。暗いところでの手話の会話に。普段はアウトドアなどで使用。



(情報のみ)

テレビ電話

災害後は家族や親戚に安否の確認をしたいが、音声電話は聴覚障害者には無用の長物。どうしても「テレビ電話」が必要になります。また、テレビ電話による遠隔リレーサービスも必要ですね。



(情報のみ)

ヘッドライト

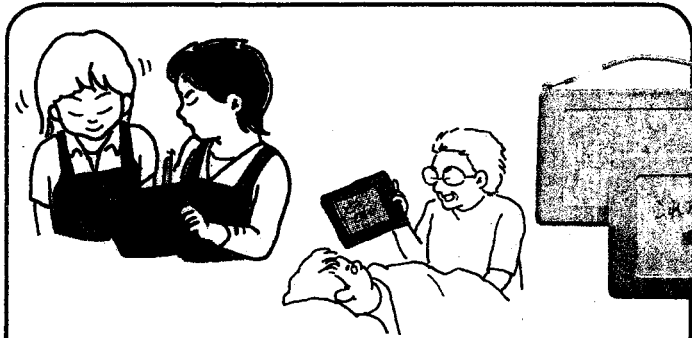
被災地からの要望は「停電でまわりは真っ暗。聞こえる人は声をかけ合えるので良いが、聴覚障害者はお手あげ!!」暗い所でもコミュニケーションできるライト!! 普段はナイトキャンプ、夜間の作業などに使うヘッドライトが大活躍。



(情報のみ)

限られたツールを有効に使いましょう

いつもは・・・



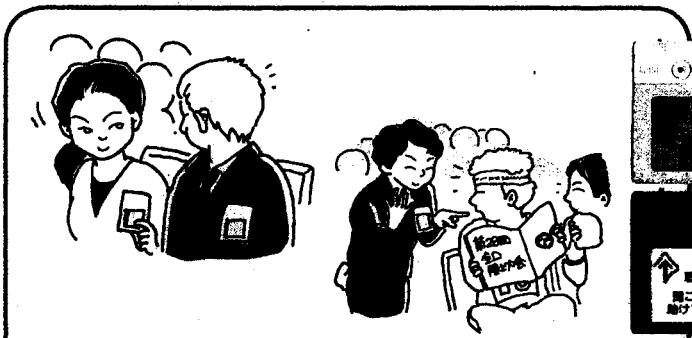
簡易筆談器

災害時は

情報保障に!! 避難所など



簡易筆談器



LED ネームプレート

手話通訳等、探すのが大変!!

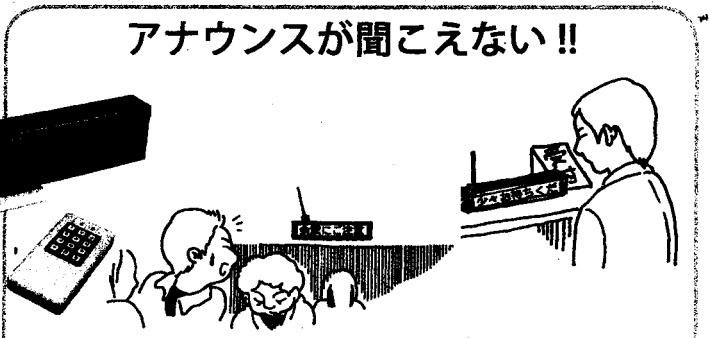


LED ネームプレート



電光文字表示器

アナウンスが聞こえない!!



電光文字表示器

新潟県中越地震の後方支援から開発

この無線・小型LED電光文字表示器の開発は当社の代表取締役が、新潟県中越地震で、避難所の様子を実際に見て、固定されている電光文字表示器がうまく操作されず、特に緊急時にはほとんど役に立っていないことに気づいたことから始まりました。特に聴覚障害者の方は放送などの音声情報が分からず、大変不安の中にいます。それを何とかしたいという思いが開発の原点です。

普段は窓口などで文字案内に使用し、災害時は避難所での情報保障等に活用することをお勧めいたします。

一般的には、文字表示器に情報を送るにはパソコンがあるところまで行く必要があります。特に災害時はその余裕がありません。こういう時、どこからでも送れるシステムがあればということで考案した物がリモコン式送信器。100mの範囲ならどこからでも送れます。

これはパソコンになれていない人（特に高齢者）でも簡単に覚えられます。

発言席

中野区にはNPO法人があるが、深夜、しかも急なこともあり区内の聴覚障害者への緊急情報発信に至らなかったようだ。

停電ではテレビの緊急情報を見ることもできないし、聴覚障害者が一番頼りにしているファクスの受送信もできない。このように、災害などが発生するたびに聴覚障害者はいつも「情報過疎」に置かれる。

大型台風14号の影響で関東に記録的な豪雨が降った。東京都杉並区では浸水400軒、一部で停電、避難もあった。私の住んでいる中野区でも大雨や洪水による被害が続出し、川沿いにある妻の実家も床下浸水になった。

記録的豪雨は聴覚障害者の私達にも情報伝達面でさまざまな課題を残した。妻の話では、区の広報車が繰り返し地域住民に「避難勧告をしている」と呼びかけた。

私は聞こえる人の情報で分かったのでよかったが、特に独り暮らしの聴覚障害者らほどのようにして情報を得ればよいのか。聴覚障害者の知人は、帰宅途中に川のはんらんばに遭遇した。本人には広報車の避難勧告は届かなかったようだ。



聴覚障害者に情報保障を

聴覚障害者団体事務局長・岩淵紀雄

どで伝える方法を工夫してほしいと訴えてきた。例えば、広報車には情報伝達手段としては全天候型の「ストロポ付き緊急電光文字表示機」を搭載、避難所には緊急電光文字情報受信テレビ、簡易筆談器なども欲しい。

一方、これまでの災害の教訓が生かされたところもある。手話で話す聴覚障害者向けの支援団体だ。手話ボランティアなどは聴覚障害者にとっては重要なサポーターだが、圧倒的に多い、手話のできない中途失聴・難聴者には利用しにくい。とりわけ補聴器ユーザーなどに対する配慮も必要だ。

火災も人命にかかわる。施設などに火災警報器の義務づけをしている消防法施行令は依然として首で知られることになっている。また、家庭に火災警報器の設置を義務つけた東京都や横浜市の防災条例にも聴覚障害者の視点は盛り込まれていない。85年以降だけでも、住宅火災で156人以上の聴覚障害者の被災者が出ている。

政府が支援しているユニバーサルデザインは、すべての人に公平に配慮することが大前提だが、実際は物理的なバリア(障壁)を取り除くことに特に力を入れていたようだ。換言すれば、情報障害者である聴覚障害者のことは軽視されている傾向が強い。障害の自身は違っても人間には変わりはない。公平に扱ってほしい。

(毎週日曜日に掲載)